

港湾都市としては、その背景になる「心」すなわち街並みが必要で。

大棧橋には多くの人が集りますが豪華船にのみ関心が寄せられています。横浜には「顔」も「心」も見ろべきものが無いからでしょうか、観光船客もみんな素通りです。慣れない異国のトラック街道横断は、大変危険ですから観光客にとっては素通りも最善の策です。一日も早く能率的な貨物輸送道路を作ってください。それは港の力をより充実させるでしょうし、横浜の「顔」と「心」を結ぶ大前提なのです。

私は横浜には「顔」も「心」も無いといいましたが、造りの関係者は、おのおの勢いいっぱい努力していることを、認めないわけではありません。先日、ある雑誌で新港ふ頭を公園にする構想が発表されましたが、私には想像もできなかったことです。ふ頭にはレンガ造りの記念すべき上屋があり、公園の先端には真白い帆船が浮かんでいました。是非とも実現し横浜の美しい顔にしたい。また別の話に横浜駅から山下公園へSLを走らせ、おとづれる人達に横浜を満喫していただくとか。山下公園には不似合な貨物線、それを生かす最良の方法です。

港は能率的に稼動し、一方観光資源として美しい「顔」をそろえられるなら、それにふさわしい街並を持たせたい。

関内の歩道はレンガタイル、ガス灯風の街路燈を見上げると電線も見えない。文明開化のルーツを自認するためにはやりたい事です。またここには残して置きたい建造物がいくつかあります。それ自体文化的な遺産であり、子孫に託す努力を惜しんではならないと思います。

美しい港、しっとりとした街路は、おとづれる人々のよい憩いの場、よい散歩道になるでしょう。観光客を素通りさせない港まちの景観を作り上げたいものです。

(馬車道商店街企画委員)

### 国際都市にふさわしい都市づくり

高見澤 一男 (港北区 64歳)

横浜にペリーが文明開化の火を燈して、すでに一世紀余が過ぎたが、貿易港として日本をリードして来た横浜港は戦前、戦後を通じて経済や文化、技術のあらゆる面で、国際社会に大きな貢献をしてきた。この横浜の将来を今後どのように発展させていかなばならないか、市民であるわれ

われ一人ひとり、次の新しい時代にバトンを送るために、どうしても考えねばならない責任と義務がある。そして横浜に住んでよかった、横浜で事業をしていてよかったとだれでも思うような自信をもてる横浜を造る事が住民の課題であるように私は考える。私は昭和初期に神奈川条約前から続いている古い店に世話になって以来、異色ある文化水準の高い横浜を見てきた。絹糸や、雑貨を海外に輸出する横浜港には英国や、アメリカからの豪華客船が出入りし、賑やかに外国人が瓦斯燈の街を往来していた。港を背景として機械や化学産業の分野が発展を遂げて、石油化学、アルミ、肥料、自動車工業が国産化への移行を始めたのが昭和十年前後の京浜工業地帯の完成である。毎日のように雑音が響き大工場が建ち、高い煙突から石炭の煙が立ち昇り、横浜はわが国有数の工業の集積地として、常に技術革新の第一線の指導的役割を果し、豊富な技術知識を蓄積して今日に至った。しかし一方大企業をささえる影の力とも言うべき中小企業の貢献もまた極めて大と言わざるを得ない。市内に点在する中小企業の数はおよそ七、八千軒で従業員もおそらく十万人を越すと思われるが、行政法規が常に後追いの形で作られてきたことと土地の乱開発の影響により

これらの工業が住工混在の中におかれ、かなりのトラブルも起きている始末である。

私は次のように提言したい。これからの八十年代は市政を根本より洗い直し、住工混在を解消するため小さなアパート群などを十階建ての丸ビル型の耐震構造に改め、四、五百世帯を収容し病院、交番、消防、幼稚園等を一緒にした緑地の中の協同民族住居を造る事を希望する。また一方、中小企業団地の造成を行い、衛生環境の充実した無公害の生産工業地帯の建設を急ぐ事が肝要である。横浜市民三百万余のための今後の行政運営にあたっては多くの予算を伴う事は当然であるが、税金はとられるのではなく市民連帯の立場で必要経費を納めるといふ住民意識と、市政参画意識を常に持つ方向に努力すべきである。

市の行政は市民本位で、役所は市民の城であり、市に奉職する者は公務に忠実である事が大切だ。さらに市民は国際港都にふさわしい国際人としての認識を持ちたい。将来の横浜を良くし、繁栄させるため国際教育機関などを積極的に推進し、国際交流に力を注ぎ第二のスイスとしての方向付けをする事が横浜市民の役割であり、行政の使命であると私は考える。

(高見澤工機機社長)